



こどもたちは、オヤジのチカラを待っている。

おやじパワーとネットワークを活かして、発達障害児を中心とした子どもたちの育成と将来の自立・就労に向けて支援活動をおこないます。



1

特定非営利活動法人おやじりんく 法人案内

－アジェンダ

- 法人案内
- NPO法人おやじりんくとは
- NPO法人おやじりんくは父親たちによる支援団体 1
- NPO法人おやじりんくは父親たちによる支援団体 2
- NPO法人おやじりんくは父親たちによる支援団体 3
- NPO法人おやじりんくは父親たちによる支援団体 4
- こどもたちは、オヤジのチカラを待っている。

法人案内

2

法人案内

- 法人名 / 特定非営利活動法人おやじりんく
- 主たる事務所 / 埼玉県さいたま市見沼区大和田町1-913-1
- 連絡先 / 電話 : 048-677-5902 FAX: 048-610-8743
- 設立年月日 / 2012年11月16日
- 役員構成 / 理事 : 金子 訓隆 / 奥脇 学 / 本田 信親 / 大谷 貴志 監事 : 山中 弘幸

団体の目的

この法人は発達障害児・者を主とした障害者に対して、自立支援や療育、保育、就労支援などの支援を行うことを目的とする。

また障害者を扶養する保護者や家族と、各種イベントや交流会を通じて交流を行い、障害児・者に対しての理解の貢献に寄与することを目的とする。

またこの法人は、障害児に対し、児童福祉法に規定する児童発達支援事業及び放課後等デイサービス事業を行い、障害当事者及びその保護者や関係者に対しては、障害者自立支援法に基づく特定相談支援事業なども行うことで、障害者福祉に寄与することを目的とする。

特定非営利活動に係る事業

- ① 障害者の就労支援や生活支援のためのソフトウェア開発研究事業
- ② 障害者を支援する為の情報提供、イベント開催事業
- ③ 障害者同士のふれあい交流事業
- ④ 障害者を家族に抱える保護者のふれあい子育て交流事業
- ⑤ 児童福祉法に規定する障害児通所支援事業を運営する事業
- ⑥ 児童福祉法に規定する児童発達支援事業及び放課後等デイサービス事業
- ⑦ 障害者自立支援法に基づく特定相談支援事業、児童福祉法に基づく障害児相談支援事業
- ⑧ 障害者自立支援法に基づく移動支援事業

NPO法人おやじりんくとは

3

発達障害児の子育てを例えるなら

『母親は顕微鏡』『父親は望遠鏡』だと感じています。

母親はどうしても「今の子どもの状態」「今の特性」「今の環境」を中心に考えて判断してしまいます。

これは母親の子育てが「顕微鏡」のようなものであるからだと思います。

母親は今の我が子に対しては細部までよく分かります。しかし、将来的なことも含めた成長というものを具体的に捕らえて療育する事はなかなか判断が難しい。

しかし、父親の子育ては「望遠鏡」です。

いまの細部の子どもに対しては、ぼんやりとしか見えませんが、将来的な療育や支援や自立については、社会的立場からも判断することができます。

母親は顕微鏡として、父親は望遠鏡として。この2つの異なる両輪がうまく交わることで、発達障害児の子育てはうまくいくのでは？と思っています。父親は昼間は勤めており、さまざまな仕事の分野ではプロフェッショナル。そのプロの目から新しい障害児・者の支援を考え、将来的な自立（就労）について経済面・政治面・社会面から様々な角度で支援の枠組みを考えたいと思っています。

おやじりんくのロゴは、3つの円が重なり合っています。この円は光の三原色である赤色、緑色、青色の3色です。人は個人としてその単色で様々な個性がありますが、その円（縁）が重なり合っていくと、別の色（個性）を出していきます。そしてすべての円（縁）が重なりあうと「白」になります。ここから全ての色へと変化できる。所謂「無限の可能性」を放つことができるという意味です。

発達障害障害児・者は様々な個性やタイプがあります。そのタイプに必要な支援する側のタイプを、私たちがこの円（縁）の組み合わせで、色を合わせてそして、障害児・者へよりプラスになる支援となるように組み合わせていきたいと考えております。

父親は昼間は勤めており、様々な仕事の分野でプロフェッショナルです。1人1人の巧みな技術や能力に関してはみんな得意分野を持っています。

その巧みな技術や能力を仕事だけではなく、ちょっと未来の子どもたちに向けた取り組みとして利用したら？と考えてみませんか？少し視点を変えることで、無限の可能性を秘めた様々な支援ができるのではないかと考えています。



NPO法人おやじりんくは父親たちによる支援団体 1

4

設立まで1年以上の時間を費やした・・・

『1つのこだわり。3つのバランス』についてご紹介

『1つのこだわり。』障害児を抱える父親たちだけで設立

当団体の大きな1つのこだわり。それは設立時の役員5名、そして10名の社員はすべて障害児を抱える父親だけで設立されたことです。

とりあえず法人化して・・・ではなく、法人化をして何に対して活動するか？を明確にするべく、おやじりんくは「発達障害児を抱える父親が、父親の目線で支援を考え、父親たちから社会への理解啓発を行っていく」というコンセプトを明確にするために、設立の段階からこの賛同者すべてを障害児を抱える父親だけでの設立にこだわりました。

オヤジたちのオヤジたちによる、オヤジからの障害児・者への支援と社会への理解啓発を目指します。 **団体構成員：理事4名／監事1名／社員10名**

NPO法人おやじりんくは父親たちによる支援団体 2

5

『3つのバランス。』

1. 地域性から支援格差是正を促すバランス／関東圏5名・関西圏5名

療育手帳（知的障害者手帳）などの在り方や、その交付基準、そして手帳等級に関しては、各々の県や政令指定都市が窓口となっており、住む地域が変われば手帳の在り方も大きく変わってしまいます。

これでは国に対して支援格差の是正をいくら要望をしても基本的なスタンスがない限り、これを変える事が出来ません。

そこで、この問題となっている地域による支援格差の是正に取り組むために、おやじりんく設立時のメンバー10名は、居住地が東京・埼玉など関東圏在住が5名、そして大阪・兵庫などの関西圏在住が5名とし、東西バランスよく構成をしました。東西の父親たちが連携し、二大都市を拠点にイベントや勉強会を開催して、地域による支援の格差是正についてみんなで考えて、その地域ごとに他の地域の制度について学びながら具体的な要望ができるように取り組んで参りたいと考えています。

NPO法人おやじりんくは父親たちによる支援団体 3

6

『3つのバランス。』

2. 経済的支援を考えるバランス／会社経営者5名・企業従業員5名

経済的立場・社会的立場から、実際に障害児・者を抱える父親たちが、生活面から感じたことや不足している支援を具体的に行政・自治体へ要望していきます。障害児・者への環境を変えるには率直に言って資金、いわゆる働く場所やハード面での整備拡充が必要です。日本経済の向上と、障害者支援の枠組みづくりは比例しています。

そこでこれからの支援を考えた時、中小企業の経営者の立場から、また企業へ就労されている立場から、各企業への経済的発展にも寄与しつつ、支援に対して理解ではなく、企業や社会へ協力を求める活動をしていきます。

父親はビジネスマンという観点から経済的支援の協力者を創ることが可能です。それは地域の枠を飛び越え、そして様々な社会的立場から支援を具体的に要望（する）できるようにしていきたいと思っています。

そこでおやじりんくの設立時の団体構成員の職柄で分担として設立時は、5名が会社経営者（中小企業社長）であり、5名が様々な企業に属する従業員で構成しました。この構成によって、支援の考え方や制度の在り方など様々な角度から検証できるようにしていきたいと考えています。

NPO法人おやじりんくは父親たちによる支援団体 4

7

『3つのバランス。』

3. 支援の偏りを是正するバランス／障害特性は軽度障害から重度障害まで

発達障害は別名「虹色障害」と言われるほど、障害特性は様々です。手帳判定がおりない知的なハンデを伴わない、障害児も居れば、知的ハンデを大きく伴う、自立は困難な自閉症の子どもも居ます。しかしみんなその子どもたちの目線で考えると「困っている」という気持ちは同じです。

その困り感友達との交流であったり、社会との繋がりによる問題であったり、コミュニケーションの問題であったり、障害特性からの困り感はその人それぞれ様々ですが「その子なりの困った」で考えると一緒です。

おやじりんくのメンバーの子どもたちも、軽度障害から重度障害まで様々です。そして年齢も3歳からまもなく成人を迎えるお子さんまで幅広い年齢の子どもが居ます。

当団体の支援は、今の困り感を解消する手助けも含めて、その当事者の年齢と障害特性に併せた様々な形で、将来への自立に繋がられる支援ができるように！と考えています。

こどもたちは、オヤジのチカラを待っている。

8

オヤジが集まればチカラは無限。

『自立=就労』という考え方

『人間の幸せとは「人にほめられる」「人の役に立つ」「人に必要とされる」こと。

いずれも「働く」ことで得られる喜び』（日本理化学工業株式会社 大山泰弘氏）

父親には2つの顔があります。

1つが一家の大黒柱である「父親」という顔で、そしてもう1つが「ビジネスマン」という顔です。

おやじりんくで知り合った人たちは「障害児・者を子どもに抱える父親」という以外は、居住地域や職業や年齢や社会的立場はすべて異なります。

おやじりんくの賛同者にはIT企業の経営者、自動車修理工場の社長、障害児デイサービスの経営者、プログラマー、運送会社、企業コンサルティング、弁理士、社会保険労務士、証券会社、脚本家、クリーニング業経営者、飲食店経営者、市議会議員、国会議員、公務員など多種多様のビジネスマンとしての顔があります。

おやじりんくで知り合った方々は、お互いの子どものことを語り合いながら我が子らの将来を共に考えていく。するとそこから派生してビジネスマッチングが生まれる可能性があります。

その仕組みの中に、もしかすると障害者の方々の新しい雇用創出の可能性も秘めているかもしれません。

おやじりんくの目指すところは、そんな新しい出会いからの新しいビジネスマッチング。私たちが今の段階では想像もしていない、新しい障害者の就労の仕組みが出来上がる可能性もあります。その無限の可能性に期待しています。